

■ 国立市の財政の基本的なあり方を議論する際のポイント ～ 第1回審議会配布資料 「国立市財政のいま」より～ ■

- ◆ 国立市の一般会計の予算規模は約255億円(平成23年度当初予算)
- ◆ 予算・決算における赤字補てん(臨時財政対策債の借入れ及び財政調整基金の取崩し)をしながらの財政運営が続いている。
- ◆ 赤字補てんの額は、平成22年度決算では、財政調整基金1.0億円と臨時財政対策債7.0億円の合計8.0億円。また平成23年度当初予算では、財政調整基金4.7億円と臨時財政対策債8.9億円の合計13.7億円。
(※自治体会計の予算の仕組みから、通常は決算の方が赤字補てんは少なくなる。)
- ◆ 財政悪化の理由は、支出の増大に収入の伸びが追いついていないこと。行革を実施するも収支の改善に至っていない。
その主な要因は・・・
 - ① 昭和の終わりから平成の初めにかけて急速に整備した下水道事業の元利償還金の負担が重いこと。
市民の衛生環境は劇的に改善したものの、国立市の一般会計からの繰出金は人口25万人の府中市と同等の14.8億円に上る。
 - ② 地方交付税交付額の大幅減など国の地方財政に対する支出の絞り込み、三位一体改革による影響など。
 - ③ 扶助費、医療・介護給付に関する特別会計への繰出金の伸びが大きく、市税収入の伸びが追いついていないこと。
- ◆ 他市との市民1人当たりの比較(平成22年度決算)では、
 - ① 市税収入は多い(比較的高額所得者が多い)が、地方交付税収入が少なく、さらに性質別では繰出金が26市で一番多いため、市税収入の優位は相殺されている。また、人件費も、多摩26市の中で第4位と高い。
 - ② 目的別では、議会費が多摩26市の中で第2位、土木費は第7位と比較的高い。
 - ③ その他では、収支に突出した項目はない。

◆人口1人あたり多摩26市財政状況比較(平成22(2010)年度決算)

項 目		国立市の額	国立市の順位 (多摩26市中)	26市平均との差	類団平均との差
歳入	市 税 全 体	190,363円	4位	+25,238円	+44,073円
	市税(個人市民税)	88,507円	3位	+18,911円	+24,702円
	市税(法人市民税)	7,988円	12位	-1,036円	+2,374円
	市税(固定資産税)	72,257円	8位	+5,039円	+8,353円
	地方交付税交付金	4,217円	17位	-25,418円	-10,321円
歳出 (性質別)	人 件 費	65,207円	4位	+6,246円	+6,135円
	職 員 給	38,212円	8位	+1,883円	+2,652円
	扶 助 費	88,386円	11位	-6,166円	+999円
	公 債 費	23,505円	14位	-2,481円	-261円
	物 件 費	43,108円	19位	-6,617円	-947円
	繰 出 金	50,793円	1位	+12,080円	12,408円
	積 立 金	3,072円	23位	-5,338円	-7,146円
	普通建設事業費	29,230円	18位	-8,565円	-4,673円
歳出 (目的別)	議 会 費	4,044円	2位	+1,328円	+515円
	民 生 費	151,251円	10位	+2,111円	-2,221円
	土 木 費	40,477円	7位	+6,881円	+11,727円
	教 育 費	38,690円	17位	-3,288円	-3,527円